

遺孽

【読み】 いゝげつ

【意味】〔名〕「孽」は、ひこばえ。切った草木の根や株から生え出た芽)

①死後に残された妾腹（めかけばら）の子。正統ではないが血をひくもの。

*語孟字義（1705）下・論堯舜既没邪說曩行又作「唯黃老之說、遺孽猶在、至_レ漢再熾」

*日本外史（1827）七・足利氏正記「獲_二新田氏遺孽二人_一、送_二京師_一斬_レ之」

②滅びた家の血統をひくもの。また、残党。余孽。

*本朝文粹（1060頃）四・貞信公辞撰政准三宮等表（大江朝綱）「余燼遺孽。逆心長滅」

*読書放浪（1933）〈内田魯庵〉読書放浪・一二「啻だ独り宗門に対しては寸毫も仮借せず、

〈略〉且三族までも絶やして遺孽なからしめた」

*徐陵・為貞陽侯与陳司空書「殘厥兇渠、曾靡_二遺孽_一」

【参照】『日本国語大辞典』 小学館